



## レポートかわいキャンプ

盛岡市災害ボランティアセンター  
☎ 019-651-1000  
盛岡市かわいキャンプ  
☎ 0193-76-2005  
kawai-camp@echna.ne.jp

### 宮古市大震災遺留品返却会 津波で流出した写真、アルバム市民へ戻る

- ◆ 10日と11日、宮古市民総合体育館(シーアリーナ)で津波で流出し宮古市内で回収された写真、アルバムなど約2万点の返却会が開催されました。これまで2回公開されましたが、泥やカビなどが付着したものが多くあったことから、宮古市役所さんにはかわいキャンプから洗浄の協力をお伝えしました。当初は富士フィルムさんのご指導を受けて作業に取り組みましたが、今年1月からは、かわボラさんの理解を得て、キャンプに未処理の遺留品を持ち込んで処理を急ぎました。
- ◆ 今回の返却会に向けて、昨年10月31日から今年3月9日まで延べ約100日、約850名のボランティアさんにこの作業に携わっていただきました。この間、地元岩手県立宮古高校一年の全クラスの生徒さんが、6日間、255名も参加していただいたほか、盛岡市内を始め岩手県内の方々からも日帰りでの支援を受けました。
- ◆ この返却会は、宮古市民総合体育館(シーアリーナ)で開催された東日本大震災一周年追悼式に合わせて開かれたこともあって、多くの市民の方が来場されました。会場では、思い出の中で自分の肉親に出会うことができたり、親戚、友人、知人の姿に再開する光景が見られました。開催両日で来場者数は約700名、運営に従事されたボランティアさんは延べ200名に達しました。
- ◆ 4月からは、宮古市役所さんが宮古市総合福祉センター(生活復興支援センター)敷地の一角に設置した「(仮称)宮古市写真救済センター」で、津波遺留品の常時公開が行われます。
- ◆ 処理作業の段取りから返却会の運営企画まで当たられたボランティアリーダーの皆さん、ご苦労さまでした。



### かわいキャンプからも「祈りの灯火」

- ◆ 11日の夜、盛岡広域圏市町村長懇談会(会長 谷藤盛岡市長)が震災一周年を追悼して開催する「復興への誓い〜2万個の灯火」にかわいキャンプも参加しました。かわボラさんはこの日に向けて、活動を終えた後の時間などを利用して、牛乳パックを加工し「祈り」などの文字や模様を切り抜いた灯籠を制作してきました。
- ◆ キャンプ前の広場で蝋燭の火にやわらかく浮かび上がる灯籠に、犠牲となられた方々への鎮魂を表すとともに、復興支援への誓いを新たにしました。

